公立大学法人
福井県立大学

ようこそ県大研究室

vol.2

ロシア経済とロシアの財政

アンドレイ ベロフ Andrey BELOV

所属：経済学部／経済学科
職名：教授

職歴
1991 レニングラード国立大学経済学部助教授
1992 北海道銀行証券国際部カスタマーアドバイザー、
　　北海道地域総合研究所兼任研究員
1998 福井県立大学　助教授
2003 現職

専門分野
ロシア経済

主な著書・論文
『中ロ経済論』2010年、ミネルヴァ書房、共著、（共著者）大津定美（編著）など12名、第９章ロシア極東地域と外国直接投資（A６版、pp. 167－181）
『北東アジアのエネルギー政策と経済協力』、2011年、京都大学学術出版会、共著、（共著者）坂田幹男（編著）など11名、第２章北東アジア諸国とロシア極東のエネルギー協力（A６版、pp.·49－70）
『東アジアの地域経済連携と日本』、2012年、晃洋書房、共著、（共著者）坂田幹男・唱新（編著）など10名、第10「シベリアの呪い」とシベリア開発―北東アジア地域経済協力への視点を探る（A６版、pp. 205－223）

Q 先生ご自身のご紹介からお願いします。

A 私は１９５９年にロシアで生まれ、91年にレニングラード国立大学経済学部の助教授に就任。92年に来日して、北海道銀行の北海道地域総合研究所に兼任研究員として就職しました。その後１９９８年に福井県立大学に助教授として赴任。２００３年から教授として勤務しています。

Q 福井県立大学で先生はどのようなことをなさっているのですか？

A 私は今、福井県立大学「北東アジア研究チーム」の一員としてロシア経済の研究を担当しています。１９９２年に開学した福井県立大学は、日本海に面している諸国から中国経済、韓国経済、日本海・北東アジア経済交流を研究している専門家を集めました。私も13年前からその研究チームに参加し、環日本海経済、北東アジア経済に関する様々な研究に取り組んでいます。

Q 「北東アジア研究チーム」の具体的な活動内容は？

A 北東アジア研究チームでは、日本の企業、とくに海外へ進出している福井県内企業を訪問したり、その企業の海外事務所や支店に出向き資料収集や現地調査を行っています。これまで中国・韓国・ロシア・タイ・マレーシア・シンガポールなどに行って聞き取り調査を実施しました。集めた情報をもとにチームで議論を繰り返しながら分析します。北東アジア研究会は年に6～7回のペースで開催され、今日まで十数年にわたって継続されてきました。研究会では、福井県立大の教員、院生、ゲストなど約15人が集まり、チームワークをとりながら情報を収集・分析し、積極的にディスカッションを行います。そして研究会で議論をつくした後は、それぞれ学術論文を書いたり、専門書を作ったり、全国の学会や国際学会で結果を発表したりしています。そして（これがもっとも重要なのですが）、研究結果を大学で使うテキストや授業の内容に反映しています。つまり、研究チームの活動は、大学での教育にも重要な役目を果たしているのです。

具体的な例を挙げましょう。経済学部には「環日本海経済論」という3年次生向けの専門科目があります。この科目では複数の先生が講義をしています。日本のことについては日本人の教員、そして韓国、中国、ロシアの地域経済及び地域間の経済交流についてはそれぞれの国の教員が教えており、国際的な面でも豊かな内容の授業になっています。

また県立大学のウェブサイトをご覧になればお分かりいただけると思いますが、一般市民向けの講演やオープンカレッジなども開いています。２０１２年の5月～7月には、観光業界の方々を講師に迎え「グローカル時代の観光学」をテーマに特別講座を開催。「アジア・

ロシア・アメリカからの観光客を増やすために福井の観光には何が必要なのか」について考えました。学生に混じって関心のある方が多数参加しました。

Q 先生のご専門、研究テーマを教えてください。

A

私の専門はロシア経済研究です。特に「ロシアの財政」、その中でも「財政支出の地域別配分」が研究テーマです。ロシア経済の特色は三つのキーワードで説明できます。

一つ目はＢＲＩＣＳ経済。ＢＲＩＣＳというのはブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカで構成される五カ国の発展途上国のグループです。ＢＲＩＣＳの「Ｒ」にあたるロシアは、もうすでに大きな経済力・政治力を持っており、そしてこれからも経済成長の大きな可能性を秘めています。世界経済におけるＢＲＩＣＳの重要性が上昇するのは間違いなく、ＩＭＦによれば少なくとも２０１４年までには、ＢＲＩＣＳの総合ＧＤＰはアメリカのＧＤＰを超えると予測されています。

二つ目のキーワードは「移行的経済」です。ロシアは20世紀、70年以上にわたって社会主義と呼ばれる体制でした。社会主義時代の計画経済と独裁政治によって、ロシアでは市場経済とは違った形で経済が成長していました。例えば、非常に寒い北部の地域には大きな都市ができましたが、住みやすい南部では都市開発が遅れていました。交通手段としては公共のバス・鉄道・地下鉄の開発はすすんでいましたが、個人向けのマイカーに必要な道路の建設、サービスの発展は遅れていました。１９９０年代になって社会主義はなくなり、新しいインフラの整備、「再開発」がはじまりました。社会主義から市場経済へと移行しつつあり、こういった意味でロシアは「移行的経済」であると思います。

最後のキーワードは「石油国家」です。ロシアには豊かな天然資源があり、１９７０年代からのロシア経済はエネルギー資源の輸出収入に依存しています。今のロシア財政収入の40％以上はガス・石油・石炭の輸出によるものです。石油会社の豊富な輸出収入を社会の目的に合わせて効率的に再分配するためには、いわゆる「強い国家」、つまり影響力のある政府が不可欠です。そのような制度が今、ロシアにできつつあります。

Q ロシアと日本は、今後どうなっていくのでしょうか？

A

日本とロシアとの経済交流は現在、いろいろな分野で注目されています。日本で使われているアルミニウムの約３分の１、木材の10分の１はロシアから輸入されています。しかし、最近はエネルギー協力が一番注目を集めています。日本に対するロシアの石油・ガス・石炭の輸出は毎年伸びています。今の日本のエネルギー消費におけるロシアの割合は６～７％に過ぎませんが、今後この割合は増加していくことでしょう。ロシアはエネルギー資源が非常

に豊かで、地理的にも日本に近い。そしてロシアは、中東諸国より政治や社会が安定している国です。そのため近い将来、ロシアは日本および東アジア諸国にとって重要なエネルギー輸出国となるはずです。

Q 先生の授業について教えてください。

A 授業で学生が一番興味を持つのは、ロシアやBRICS諸国、他の国々との経済の比較です。比較をするとロシア経済だけではなく、発展途上国の経済や国際経済、日本との関係もよりよく理解できます。

Q 今後の目標について教えて下さい。

A 2011年の目標としては、ロシア北西地域および極東地域の財政投資に関する調査をおこない、それにもとづいて一つの論文を書いて、日本語およびロシア語で発表したいと思っています。

モスクワ市で建設中の“MoskvaCity”ビジネス街

ＦＢＣラジオ「ようこそ県大研究室」放送中

福井県立大学では「FBC ラジオキャンパス ふくいいいもの探検隊」の後半２部に「ようこそ県大研究室」を放送しています。本学の教員が毎回登場し、研究や教育について語ります。ぜひお聴きください。

また、本学 HP でもバックナンバーを聴くことができます。「ようこそ県大研究室」のバナーからお入りください。

放送時間

●毎週土曜日
午後5時34分～5時44分

●毎週日曜日
午前8時19分～8時29分
（再放送）

福井県立大学「ようこそ県大研究室」 ©Fukui Prefectural University 2013

2013年３月29日 初版第１刷発行

発　行　福井県立大学
〒910-1195 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL(0776)61-6000(代)

印　刷　株式会社 橋本確文堂

無断転載はお断りいたします。